

- 1: こんにちは。関西クィア映画祭の代表のひびのです。映画祭の開会に当たり、ひびの方より、簡単にご挨拶をさせていただきます。
- 2:
- 3: 関西クィア映画祭も、今年で8回目を迎えることが出来ました。
- 4: 共催を頂いたハップファイブさま、助成をいただいているゲーティンステイテュートヴィラ鴨川さま、後援を頂いたドイツ領事館さま、スイス大使館さまには、この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。
- 5: また、毎年「来年はどうしよう」というスタッフを後押しするのは、今日この場に来ていただいている皆様を始め、クィア映画を見たい、クィア映画祭を続けてほしいという観客の皆様の思いです。
- 6: ボランティアで運営するこの映画祭は、多くの方の支えがあってこそ、ここまで来ることが出来ました。何卒、今後ご支援の方を、どうぞよろしくお願いいたします。
- 7:
- 8: 御存知の通り、クィアや性的マイノリティをめぐる社会状況は、大きく動きを見せています。またその中で、仮に性的少数者であったとしても、大きな意見の違いや、理想とする社会のあり方・ビジョンの違いがあることも明らかになってきています。
- 9: 例えば、
- 10: ・同性婚に歓喜する人もいれば、同性婚ばかり注目されることを批判する人も、結婚制度自体に反対する人もいます。
- 11: ・ゲイ市場の有効性を訴える人も、「それは所詮、金持ちゲイの話」と言う人もいます。
- 12: ・大企業がセクマイを応援するのは嬉しいけど、企業の論理が「私たちのコミュニティ」に持ち込まれることへの危惧もあります。
- 13: ・LGBTの人権を訴える米国政府も、グァンタナモ基地では違法な拉致監禁を続けています。もし本当に「全ての人の人権」を尊重する気があるのであれば、沖縄へのオスプレイ配備はありえないでしょう。
- 14: ・「私たち」には、金持ちも貧乏人も、日本人も朝鮮人も、強制収容された難民も、自民党员も緑の党の支持者も、アナキストも、います。
- 15:
- 16: いま述べたような問題は、私たちの周りで実際に起きていること、問題になっていることです。今年の映画祭のパンフットには「全てのことはつながっている」と書きましたが、これは、こういった私たちの周りの問題がつながっているということも踏まえて、映画祭を作っていきたいという思いを表したものです。
- 17:
- 18: いま、クィアや性的マイノリティの現場は、単に性的指向について考えるような場ではありません。ありとあらゆる問題が可視化し、いろんな相異なる考え方の人達が場を共有しつつ争っている、そんな場所です。
- 19: 私は、様々な論点を横断するマルチイシューの複眼的視点こそ、私たちの豊かさだと思います。
- 20:
- 21: 日本人中心主義が大声を上げ、同調圧力が力を持ち、極右のファシストが総理大臣をしているのが今の日本です。こんな社会のあり方を変え、人々の多様性と人権が尊重される社会を作っていくために、今日のような「クィア」な視点は必要不可欠なものでしょう。
- 22: お互いの不一致が、私たちの社会の実り豊かさを創り出すような、そんな取り組みの一つに、関西クィア映画祭なることを、心から望んでいます。
- 23:
- 24: 長くなりましたが、今年の映画祭最初の映画は、『モスキータとマリ』です。青春ど真ん中の映画であり、移民の物語としてみることも可能です。この映画というものの豊かさを、ぜひ味わって、お楽しみください。ご清聴をありがとうございました。
- 25: